

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当第2四半期連結累計期間の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析は、以下のとおりであります。なお、文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府や日銀の金融政策等による雇用改善や設備投資の持ち直し等が見られ、緩やかな回復基調となりました。一方で、アジア新興国経済の減速、英国のEU離脱問題、ドイツの金融問題、米国大統領選挙の行方やFRBによる利上げ観測等、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループの属する医療業界におきましては、医療費増加が社会問題として年々深刻化する中で、本年4月に診療報酬、薬価改定が実施され、医療機能の分化・連携をより強固に進める方針が明確になったことで、在宅医療や訪問介護、チーム医療、外来の機能分化等、各医療機関も中長期的な変革を求められております。

このような経済状況の下、当社グループにおきましては、診療報酬、薬価及び償還価格の改定の影響を受けたものの、プロジェクト案件が期初計画に対して一部前倒しで計上されたこと、介護系メーカーにおいて経営改革効果が上がったこと、小西共和ホールディングン株式会社との経営統合による新規連結会社の業績の寄与があったこと等により増収増益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は187,550百万円（前年同四半期連結累計期間比40.3%増）、営業利益は5,661百万円（前年同四半期連結累計期間比15.4%増）、経常利益は5,869百万円（前年同四半期連結累計期間比10.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,155百万円（前年同四半期連結累計期間比16.4%増）となりました。

セグメントごとの業績を示しますと次のとおりであります。

① トータルパックプロデュース事業

トータルパックプロデュース事業におきましては、病院完成案件は下期に偏重しているものの、プロジェクト案件については期初計画より一部前倒しで計上されたとともに、介護系メーカーについても回復基調で推移いたしました。

この結果、売上高は36,490百万円（前年同四半期連結累計期間比7.6%減）、セグメント利益（営業利益）は3,305百万円（前年同四半期連結累計期間比11.5%増）となりました。

② メディカルサプライ事業

メディカルサプライ事業におきましては、償還価格の改定の影響を受けたものの、小西共和ホールディング株式会社との経営統合を実施したこと、新規SPD施設の運営受託したこと等により大幅に増収となりました。

この結果、売上高は126,992百万円（前年同四半期連結累計期間比77.1%増）、セグメント利益（営業利益）は1,058百万円（前年同四半期連結累計期間比12.8%増）となりました。

③ ライフケア事業

ライフケア事業におきましては、全国施設の一体型経営が進捗したことにより業務改善が図られたこと及び、昨年度において不採算ダイサービス拠点の閉鎖等を実施したこと等により大幅に収益が改善いたしました。

この結果、売上高は10,497百万円（前年同四半期連結累計期間比5.0%増）、セグメント利益（営業利益）は326百万円（前年同四半期連結累計期間比428.3%増）となりました。

④ 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、昨年度実施したM&Aや新規出店等により増収となりましたが、調剤報酬改定の影響を受け減益となりました。一方で、既存店舗の効率化や、かかりつけ薬局の認定が進んだことも奏功し、第1四半期連結累計期間と比べ減益率が大幅に縮小いたしました。

この結果、売上高は11,858百万円（前年同四半期連結累計期間比1.0%増）、セグメント利益（営業利益）は1,044百万円（前年同四半期連結累計期間比4.4%減）となりました。

⑤ その他

その他におきましては、日本パナユーズ株式会社他1社をグループ化したこと、動物病院の運営が概ね計画通り進捗したこと等により増収となりました。一方で、理化学機器の販売が当初計画を下回ったこと等により減益となりました。

この結果、売上高は1,711百万円（前年同四半期連結累計期間比116.5%増）、セグメント利益（営業利益）は52百万円（前年同四半期連結累計期間比16.3%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産は231,743百万円となり、前連結会計年度末と比べて13,286百万円増加いたしました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が8,618百万円減少した一方、現金及び預金が6,473百万円、商品及び製品が4,800百万円、土地が2,629百万円増加したこと等によるものであります。

負債は146,337百万円となり、前連結会計年度末と比べて9,403百万円増加いたしました。その主な要因は、支払手形及び買掛金が5,274百万円、未払法人税等が779百万円減少した一方、短期借入金が9,005百万円、電子記録債務が3,927百万円増加したこと等によるものであります。

純資産は85,406百万円となり、前連結会計年度末と比べて3,883百万円増加いたしました。その主な要因は、配当金の支払により利益剰余金が2,717百万円減少した一方、資本剰余金が3,360百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益により利益剰余金が3,155百万円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は36.6%（前連結会計年度末比0.5ポイント減）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは6,917百万円の収入（前年同四半期連結累計期間比78百万円収入増）となりました。これは主に、仕入債務が24,382百万円減少し、法人税等を3,759百万円支払った一方、売上債権が27,224百万円減少し、税金等調整前四半期純利益を5,659百万円計上したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは4,433百万円の支出（前年同四半期連結累計期間比119百万円支出増）となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入が231百万円、長期貸付金の回収による収入が187百万円あった一方、有形固定資産の取得による支出が3,231百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が1,587百万円あったこと等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは4,073百万円の収入（前年同四半期連結累計期間比9,392百万円収入増）となりました。これは主に、配当金の支払額が2,717百万円、長期借入金の返済による支出が3,543百万円あった一方、短期借入金の純増加額が8,805百万円、長期借入による収入が1,700百万円あったこと等によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて6,454百万円増加し、41,973百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は169百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

連結会社の状況

当第2四半期連結累計期間において、小西共和ホールディング㈱及びその子会社4社を連結子会社としたことにより、メディカルサプライ事業において従業員数が611名増加し、日本パナユーズ㈱及びその子会社1社を連結子会社としたことにより、その他において従業員数が327名増加しております。

なお、従業員数は就業人員数であります。

(7) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、小西共和ホールディング㈱及びその子会社4社を連結子会社としたことに伴い、設備が増加しております。

平成28年9月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	貸与資産	賃貸 不動産 (面積㎡)	その他	合計	
小西共和 ホールディング㈱	本社他 (大阪市 中央区他)	メディカル サプライ 事業	事務所他	619	785 (7,184)	—	360 (276)	53	1,818	31
小西医療器㈱	本社他 (大阪市 中央区他)	メディカル サプライ 事業	事務所 倉庫	1,784	2,099 (14,595)	—	— (—)	93	3,978	407